



## ゆ・と・り

古代ローマ都市ポンペイはヴェスヴィオ火山の大噴火により一日にして埋没してしまいました。このポンペイの遺跡の壁から「今の若い者は云々」という嘆きの落書きが出てきたそうです。一方、古代中国の古都洛陽の遺跡の壁からも同様の落書きが出てきたそうです。

こうしてみると洋の東西を問わず何千年もの昔からオトナたちは「今の若い者は云々」と嘆いてきたこととなります。はたして、今の若い者が本当にダメだったのなら、世の中滅びてしまっているはずで、しかし着実に進歩し、いまや「地球最後の悩み」である「環境問題」をどうするかと、国際的規模で真剣に悩むほど進歩しすぎてしまっているわけです。

日露戦争のときの日本海大海戦で当時世界最強を誇ったバルチック艦隊を撃滅した連合艦隊司令長官東郷平八郎は、「今の若い者とは言いまじく候う」とオトナたちをたしなめたそうです。なぜならあのバルチック艦隊を葬り去ったのが、ほかならぬ「今の若者」だったからです。

前置きが長くなってしまいましたが、本校の学生たちもまさしく「今の若者」の真っ盛りです。その学生たちが年間1400時間のカリキュラムに取り組んでいるわけですが、特に実習では、猛暑の中、そして厳冬の中も、全身汗まみれ油まみれになって黙々と励んでいる姿はまさに圧巻であり、若い日本ここにありの感を彷彿させるものがあります。

話は少しそれますが、私たちの年代は人間らしい生活の三要素は、「衣食住」の充実だと教わってきました。「衣食足りて礼節を知る」と言われているとおりです。しかし高度成長をひた走り、オイルショックを味わったころから考え方が少しずつ変わってきました。

そこで静かに登場してきたのが「遊」です。概念としては、ゆとり、余暇、レジャー等をひっくるめ

ての「遊」としたようです。今ではこの「遊」がすっかり「衣食住遊」の四点セットに定着した感があります。かつての世界に冠たる大日本帝国海軍のスローガンは「月月火水木金」でした。この土日返上の猛訓練の結果については、皆さまご承知のとおりです。皮肉にも「ゆとり」を採り入れる「ゆとり」がなかった結果によるものです。

話は大分遠回りしましたが、吹き出る汗を作業服に押し込めて黙々と励んでいる学生たちを見て、もう少しゆとりを与えられたらなあーという、これは私のボヤキなのです。しかし、この年間1400時間のカリキュラムは労働省が定めたキツイ「オキテ」なのです。なるほど、このカリキュラムも時代とともに推移し、昭和44年度の年間1700時間、昭和50年度からの1600時間、そして平成5年度から一気に1400時間と「遊」をいちやく採り入れられた労働省に対して敬意を表する次第です。しかし平成5年度以来もう6年も経過しておりますので、もうそろそろご再考願ってもよい時期ではないかと思っております。「鉄は熱いうちに鍛えよ」とも言われてはおりますが...

最後に、「今の若者」に戻りますが、あいさつができない、しつけがなくなっていると言われておりますが、彼らは「未完の大器」で入学してくるのです。そんなことは、別段取り立てることもなく当たり前のことだと思っております。この「未完の大器」をいかにして立派なエンジニアに、そして社会人に「変身」させて送り出すかが、私たちに与えられた最大の仕事の喜びと思っております。

いとう たかゆき

略歴 1941年(昭16)1月生まれ

1996年 福島県商工労働部工業課長

1998年 現職